第8講　ず・き・けり
PART1　ず

ず

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	ず							特殊型 ＋　型

【意味】

①　打消（〜ない）

問七　「なかなか止まるべきにあらざれば、…」の傍線部の終止形を答えなさい。

問八　「忘れ［A］けり」の空欄Aにあてはまる「ず」の助動詞を、適切な活用形にして書きなさい。

問九　次の空欄 A ・ B には助動詞「ず」が入る。それぞれにふさわしい形を後の中から選べ。

「秀郷も後ろをかへりみ A 、はるかに行き隔たりぬ。」
「夢も結ば B 仮寝の枕、…」

ア　ず　　イ　ざり　　ウ　ぬ　　エ　ざれ　　オ　ね

A＝　　　B＝

問十　「心も又ひとしきものにあら A 。」の空欄Aにあてはまる打ち消しの助動詞「ず」の活用形として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ず　　イ　じ　　ウ　ざり　　エ　ざらむ　　オ　ざる

第8講　PART1　確認問題

①「思ひとけば、ものなむはづかしからぬ。」の傍線部の口語訳として正しいものを、次の中から選べ。

ア　はずかしくないつもりだ
イ　はずかしくないだろう
ウ　はずかしくない
エ　はずかしくはあるまい

②「漂泊の思ひやまず、…」の傍線部の活用形として正しいものを、次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

③「風はげしく吹きて、静かならざりし夜、…」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものとその活用形として正しいものの組み合わせを、次の中から選べ。

ア　打消・連用形　イ　過去推量・已然形　ウ　存続・連体形　エ　意志・已然形　オ　推量・未然形
カ　打消・連体形　キ　過去推量・連用形　ク　存続・未然形　ケ　意志・終止形　コ　推量・終止形

④「あたりを離れ［ a ］君達(きんだち)、…」の空欄ａにあてはまる助動詞「ず」の活用形として正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

⑤「長々しき状までもいるべから［ a ］、これを持ちて近衛殿へ捧げよ」の空欄ａには助動詞「ず」が入る。正しく活用させた語を次の中から選べ。

ア　ざら　イ　ず　ウ　ざり　エ　ぬ　オ　ね

第8講　PART1　解答

問七　ず
問八　ざり
問九　A　ア　B　ウ
問十　ア

第8講　PART1　確認問題　解答

〈解説〉

①「ぬ」は打ち消しの助動詞「ず」の連体形。意味は「…ない」。

②打消の助動詞「ず」は未然形に接続する。

③「ざり」は打消の助動詞「ず」の連用形。

④空欄ａの直後にある「君達」は名詞（体言）なので、連体形に活用させる。

⑤空欄ａの下が「、」なので連用形にする。選択肢の中で連用形はイかウ。下が助動詞ではないから、正解はイ。

〈解答〉

①ウ　②ア　③ア　④エ　⑤イ